

ああ上野駅

104名の卒業生のみなさん。卒業おめでとうございます。印刷があがったばかりの卒業証書に一人ひとりの名前を心を込めて書かせていただきました。第8449号の証書を書き終えた時、ふと自分の中学時代を思い起こしました。

♪ どーこかーに故郷のたよりをのーせーて入る列車のなつかーしーさ ♪
昭和39年のヒット曲「ああ上野駅」の出だしの歌詞です。この時私も中学3年生でした。同級生の多くがその3月都会へ就職しました。この年は東京オリンピックが開催された年であり、その6年後に予定された大阪万国博と相まって日本国中ビル建築、道路整備といった好景気にわきかえっていました。分けても土木、建設業は実労働力不足で今では考えられないような高給が提示されました。中学卒業後すぐに左官^{さかん}(壁塗り職人)に弟子入りした同級生は私が大学でまだ親のスネをかじっていた頃に一戸建ての家を構え、かわいらしい嫁さんまでもらっていました。クラス会では同級生でありながら先輩が混じっているようで、常に大人を感じたものです。

さて、君たちはこの後いつ、どこで「故郷のたよりをなつかしむ」のでしょうか。地元に残る者、また4月から市外に出て新しい生活をする者、いずれにしても君たちの心の故郷^{ふるさと}はいつもここにあります。

人生は高校へ進学するかどうかで決まるものではありません。どの高校を選択したかで決まるものでもありません。今の自分を大切にし、将来に希望とあこがれをもって巣立ってください。そしてどんな時にも自分のまわりの人たちへの感謝の気持ちを忘れないでください。

健康で希望に満ちた未来であることを心よりお祈りいたします。

平成19年3月吉日